

女らしさの規制力

世にあたりますのようでいて、さてその実態は何であるかと問うたとき、いつこうにその内容がはつきりしないものがある。その具体的な内容が客観的に抽出できないものである。そういうものの一つに「女らしさ」ということばがあるのではないか。漢語で「女性的」と言いかえてもよい（しかし「女らしさ」という方がより何かを訴えているようである）。時には、この「女性的」ということばは「女の欠点」と主観的に見なされているような一種の特性、すなわち虚榮心が強い、ウソつき、人の言うなりになる等々の、いわばマイナス価値に結びつくことがあり、それに反して「男性的」ということばは、しばしば正義、大胆、勇敢などというプラス価値に結びつくことがあるようである）。この「女らしさ」ということばの対義語としての「男らしさ」あるいは「男性的」ということばについても同様である。男にも女にも多種多様の人格、性格があろうのに、わかりきつたような单一の特性がそれぞれあるように何となく考えられている、そのあたりは妙と言えば妙である。実際の暮らしの中でこの奇妙なことは、なかなか強い力を持つていて。人はしばしばこの「女らしさ」と称するものによって、行動の制限を受ける。逆に、この語によつて人を攻撃することもある。「女らしい」ということばは、褒めことばとして時には随分有効であるが、逆に、「女らしくない」ということばは何かを決定的に否定する。「男らしい」ということばも同様に男性に対して、一定の効果やチェック機能を発揮するのであるが、「女らしさ」の方がはるかに強力な規制力を発現しているようである。たとえば「女らしくない」と言つて注意を受けた女が、「男らしくない」と言つてたしなめられた男よりずっと多いのではないかと考えられる。いわば「女らしさ」ということばは一種のレッテル語としての機能を持っている。（七七七字）